

4. フィールドワーク

4.1 フィールドワーク概要

市の現状や魅力、課題について把握するために、6つのテーマを選定しフィールドワークを実施しました。なお、調査は茨城大学の学生を交えて実施しています。

【公共的な施設】

日時：令和5年(2023年)12月15日(金)11:00～16:00

令和6年(2024年)3月14日(木)11:00～16:00

調査地：幸手市役所、中央公民館、図書館、ウェルス幸手、アスカル幸手、幸手駅、権現堂堤、天神神社、老人福祉センター、郷土資料館、市営釣場・神扇池、旅館あさよろず、図書館香日向分館、平須賀南公園、千塚西公園、心鏡院、神明神社、正一位一色稻荷神社、西農村文化センター、祥安寺

【防災】

日時：令和6年(2024年)3月11日(月)11:00～16:00

令和6年(2024年)3月14日(木)11:00～16:00

調査地：下川崎、中、花島、戸島、長間、神扇地区
行幸橋

【交通】

日時：令和6年(2024年)4月16日(火)17:00～18:00

令和6年(2024年)4月18日(木)13:00～16:00

調査地：幸手駅前のロータリー及びその周辺
市内循環バス中央コース、東Bコース及び西Bコース
幸手IC

【新興住宅地】

日時：令和6年(2024年)4月18日(木)11:30～16:00

調査地：令和6年(2024年)と平成21年(2009年)頃の住宅地図を比較することで抽出された新興住宅地及びその周辺

【大規模空地】

日時：令和6年(2024年)4月18日(木)11:30～16:00

調査地：令和6年(2024年)と平成21年(2009年)頃の住宅地図を比較することで抽出された大規模空地及びその周辺

【イベント】

日時：令和6年(2024年)3月14日(木)11:00～16:00

令和6年(2024年)3月31日(日)9:00～16:00

令和6年(2024年)7月14日(日)14:00～21:00

調査地：さくらマラソン会場、桜まつり会場、幸手夏祭り会場及びその周辺

4. フィールドワーク

4.2 フィールドワーク結果

「公共的な施設」

公共的な施設 市街地編

注) 調査は大学生を交えて実施されており、大学生が気になった場所等を撮影し、感じたことをコメントしています。

凡例

- : 調査地 (市街地の公共的な施設)
- : 幸手フィールドワークテーマ1-2で訪れた施設
- : 主要施設 (このフィールドワークでは未調査)



幸手駅



外観は白と黒に幸手のシンボルである桜の模様。
西口は東口とは印象が違い、草が茂っている。



駅構内には椅子が多く、パフォーマンスをする人もいます。
西口には人も車もほとんどおらず、閑散としている。



駅前の駐輪場はほとんど埋まっている。

心鏡院



大きく本格的で立派な寺。



入り口付近には大きく立派な松の木がそびえ立っている。

天神神社



幸手城の鬼門に位置し、守護神として祀られたと考えられる。



神社の敷地の中に遊具があり、遊ぶことができる。

幸手市役所



大きなボリュームが乗っかっているのが印象的。



大きなコンクリートの柱が目立っている。



駐輪場は錆が目立っている。



掲示板は掲示が斜めに貼られている。掲示は見にくい。



案内看板が通路に対して並行で遠くから見にくい。



用水路のフェンスがない場所があり、危ないと感じる。



玄関ロビーは明るいトイレなどの奥のスペースは暗い。



受付窓口が小さく、会話をするのが大変そう。



階段が狭くて急で危険だと感じる。



廊下が細く、すれ違うのもやっとな幅しかない。



市民憲章が市役所の前に掲示されている。



幸手市ならではの、手形のモニュメントがあった。



1階は光が入りにくく、暗く入りづらい印象を持つ。



窓から外壁を近くで見ると、年季をととも感じる。

祥安寺



墓の間に通路が横切り、その先に寺がある魅力的な配置。



段々になった小さめの墓石群に圧倒された。



幸手市立図書館



ガラス張りの2階の部屋が見え、空間的なつながりを感じる。



大きな吹き抜けて開放感のある図書館。



2階には会議室があった。



借りた本を読んだり勉強出来たりするスペースがある。



おすすめの本が本棚の上に展示されている。



子供向けの本は本棚が低く、取りやすい位置にある。

正一位一色稲荷神社



幸手城の一角に祀られていた。別名「陣屋稲荷」という。



神社前にベンチがあり、休憩しながら神社を眺められる。

旅館あさよろず



老舗旅館だが、立派な外観があった。

神明神社



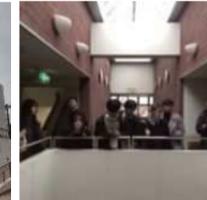
幸手宿右馬之助町の鎮守。成田・菅谷不動などが祀られる。



神社の裏に遊具があり、遊ぶことができる。



建ってから長いこともあり外観は古い印象がある。



2階は屋根が大きなトップライトになっており、明るい。



ハザードマップが掲載されていた。



立ち入り禁止の急すぎる階段にはとてもびっくりした。



天井が高い吹き抜けで、天井までガラスが使われている。



外の倉庫にはポートがある。浸水した時に使ったのだろうか？

調査に参加した大学生による考察

幸手駅、旧日光街道付近の主要な公共施設、並びに市が発行する観光マップ等で取り上げられているスポットの施設の状況や利用実態を把握することを目的として調査した。

幸手市役所は独特な構造が特徴的で、幸手市の象徴的な存在である一方で、内部が暗い、廊下が狭い、掲示が見づらい等の課題がみられた。1982年に竣工された幸手市立図書館、1973年に竣工された中央公民館は明るく開放感がある一方で、老朽化が進んでいる。また、市民の生活に必要な機能を多く有しているが、学習室や調理室など一部の室においては利用者があまりみられなかった。

駅周辺市街地では、神社仏閣や老舗の旅館など幸手の歴史を感じることができる施設が密集していることが特徴的である。遊具やベンチがあり鮮やかな色が使用された神社や、立派な構造や迫力のある墓石群をもつ寺院は、都市の中で親しみを持ちやすい観光資源の一つになりうるのではないかと考える。

4. フィールドワーク

4.3 フィールドワーク結果 「防災」

防災

注) 利根川・江戸川洪水ハザードマップ(浸水想定区域)を基に、特に浸水が想定される地域において調査を行いました。調査は大学生を交えて実施されており、大学生が気になった場所等を撮影し、感じたことをコメントしています。

凡例

- 調査地(利根川または江戸川洪水ハザードマップにおいて5.0~10.0m未満の浸水深区分に該当する地域)
- 近年の道路冠水か所
- 主な河川・調整池
- 主要施設(このフィールドワークでは未調査)



下川崎



中



行幸橋



花島



戸島



長間



神扇



調査に参加した大学生による考察

幸手市が公開している洪水ハザードマップのなかでも、特に5~10m未満の浸水深区分に該当する地域の現状把握を目的として調査した。

下川崎や中は水害から生活を守るハード面の防災が行われていることが分かった。また住宅街の中に用水路が多く、様々な場所で住宅街を切り裂くように通っている様相が、特徴的な景観を成している。用水路の対岸に高低差をつけている様子が見られ、低い方向に建てられている住宅などは注意が必要だと考えられる。緑台付近は倉松川の氾濫により近年の道路冠水か所が集中していることがハザードマップから読み取ることができる。花島・神扇・戸島などは住宅がほとんど見られない地域が多い。

偶発的な条件が重なると市内のどのエリアにおいても浸水被害が発生し得ることが分かったため、それらの事態に臨機応変に対応可能な防災拠点が必要だと考えられる。

4. フィールドワーク

4.4 フィールドワーク結果 「交通」

交通

注) 調査は大学生を交えて実施されており、大学生が気になった場所等を撮影し、感じたことをコメントしています。

凡例

- 中央コース
- 東Aコース
- 東Bコース
- 西Aコース
- 西Bコース
- バス停



循環バス

中央コース

幸手観音 石太菓子店 エムスタウン幸手

西Bコース

幸手駅西口 幸手桜高等学校 幸手市南公民館

東Bコース

幸手警察署 幸手学園前 県道371号

バス

中央コース(左)とその他のコースバス(右)。 調査員以外乗客のいない西Bコース。 地域住民の会話の場となっている東Bコース。

駐輪場

駅近くの時間貸し駐輪場。 夕方の駐輪場の様子。沢山の自転車が所狭しと並んでいる。 駅近くの自転車預かり所。

中心市街地

カーブで見通しの悪い狭い道路 車道は狭いが歩道は広い 車道ほど幅のある歩道

農地周辺道路

車道を走る農耕車 自然豊かな歩道

以前使われていたバス停 田と水路

幸手IC

県道383号と交わる幸手IC入口。

幸手駅

夕方の駅構内の様子。ベンチに利用者が座っている。 夕方の駐輪場の様子。空いているロケットはほぼ無い。 帰宅ラッシュ時間。電車から大勢の人が下車。 駅前の道路に停車する車の渋滞が発生。 会社と駅をつなぐシャトルバス。

考察

既存の鉄道と自転車・自動車及び市内循環バスの利用状況を調査した。道路については、国道4号線や旧日光街道、久喜新道が常時混雑し、未整備区間や狭い区間で渋滞が発生している。市内では水路と並走する車道が多く、特に住宅街では歩道がなく安全性に課題がある。鉄道については、帰宅ラッシュ時の幸手駅では多くの利用者が見られ、送り迎えの自家用車でロータリーが渋滞している。シャトルバスも運行されているが、タクシーの利用は少ない。自転車については、幸手駅周辺に多くの駐輪場があり、満車に近い状況が見られ、自転車のニーズが高いことがわかる。しかし公共施設での駐輪は少なく、主に通学や自宅との往復に利用されていると考えられる。バスについては、路線バス撤退後、令和4年から市内循環バスが運行されており、中央コースは利用者が多く、生活に欠かせない施設への移動手段として定着している。東Bコースは利用者が少なく、西Bコースは高齢者が多く利用しているが、本数の少なさや運行ルートに課題がある。バス停の整備状況も異なり、改善が求められる。